

日臨技企画

2023 年、臨床検査技師の将来を考える

◎代表理事会長 宮島 喜文¹⁾
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会¹⁾

近年、我が国においては人口減少問題が急減にクローズアップされ、政府は「次元の異なる少子化対策」を打ち出し、その財源を巡って国会などにおいて様々な議論が交わされている。

この問題の大きさは我が国の盛衰を左右するほど深刻且つ根深いものがあるのではないかと。現実には 15 歳から 64 歳の生産年齢人口の世代の減少は我が国の社会・経済活動を著しく縮小させることになる。そして、我が国が誇る医療・介護など社会保障制度にも影響を及ぼすものとなる。

さて、この人口減少問題を一般的に労働市場の面から考えると、高齢者や女性の労働への参加は進んでいるが、それだけでは問題解消に結びつかず、労働力の不足は深刻化することが予想される。そして、これを補うため、人の手の代替えとなる機械化や自動化など最新技術の開発や普及が加速的に進んでいくであろう。特に対物的な業務は働く人の長時間労働や身体的負担を軽減し、生活の余裕も生まれるかもしれない。更に、従来の業務がロボットなどに置き換わることが、労働力の移行にも繋がり、建設や輸送、販売や接客関係などにおいては労働市場の変化をもたらすものとなると考えられている。

私達が気になる医療・福祉現場においては、2040 年までは、生産年齢人口の減少が続くものの、高齢者人口は横ばいで推移することから、必然的に労働力不足が生じると予想される。しかし、医療・福祉など高齢者に需用の高いサービス業においては、サービス対象となる高齢者の減少がないため、引き続き医療・福祉現場での慢性的な労働力不足が続くと考えられている。しかし、2040 年をピークに高齢者人口が減少してくると、医療の需要は減少することから、逆に医療・福祉現場の労働力は過剰になる可能性が高い。

このような中、当会の今後の臨床検査技師の需要と供給に関する調査や厚生労働省の研究班の検討などからも供給過剰が指摘されている。

本会としては我が国唯一の臨床検査技師の職能団体として、臨床検査技師が将来にわたって「安心して生きがいをもって働ける環境」を将来にわたり創ることが出来るか、重大な危機感を持ち、この問

題を捉えている。

そこで 2040 年を時間軸としてとして捉え、若手会員を中心に 20 年～30 年後を見据えたグランドデザインを描き、内部での論議を高めていくと共に、本会の事業運営体制を再構築し、社会的な認知度を高める広報活動の強化に取り組もうとしている。

まさに、今、未来に向けての変革に向けて動き出そうとしている。

日臨技 精度保証の方向性

◎執行理事 神山 清志¹⁾
一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会¹⁾

新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）、がんの組織を使って多数の遺伝子を同時に調べる「がん遺伝子パネル検査（がんゲノムプロファイリング検査）」に代表される個別化医療の推進、そして一連の改正医療法など、明らかな「国策の転換」を受けて、当会では事業の方向性について大きく舵を切った。精度保証事業においては、旧来の検査値標準化を基とした事業目的から、臨床現場で求められる精度保証体制へと転換を急ぐ方針とした。また、これら事業を持続的に展開するための人材を育成・確保することも同時に進めていく計画である。

すでに医療現場では、臨床検査室（部）から一旦排出された検査値は、その精度が確保され、常に正確なものであるという前提に立ったうえで、日常診療が成されている。今後もこうした「当たり前品質」をしっかり堅持したうえで、さらに医師や患者が満足する「魅力的な付加価値」を「見える化」していくことが重要であると捉えている。単に迅速さや正確さだけでなく、臨床診断にいかにも有益な情報を提供できるのか、如何に数多く付加させることができるかが課題である。今後は、臨床検査分野においても人工知能（AI）の活用が進むことが見込まれ、それに伴い臨床検査技師の働き方も変化せざるをえない。今までのように検査室の中だけの活動範囲ではなく、臨床検査をめぐる様々なシーンを創造し、自らの存在価値を内外にアピールしていかないといけない。

当会では、令和4年度より新たな「品質保証施設認証制度」を創生した。旧制度の認証対象臨床化学と血算の2部門から、生理部門4分野を含めた10部門に拡大したほか、改正法に倣って、自ら臨床検査を実施する施設における、是正改善に向けた積極的な取り組みを評価する評価内容に変更した。今後、より多くの施設において、本認証制度を活用してもらうためには、認証取得が保険点数につながるよう政府に働きかけることも必要である。当会では、精度管理調査に受検している全ての施設が、本認証制度を利用し、積極的に是正改善措置を進めることで、我が国の臨床検査の水準を高めることを目指している。

当会では、本認証制度の審査を経験して、各施設における精度管理状況の問題点を把握することができ

た。施設規模や精度管理に対する考え方の相違はあるが、これらに対する基準が曖昧であることも問題であった。また、精度管理を担っていく人材の不足も大きな問題であると認識できた。当会としては、今後、このような内外の精度管理を担っていく人材の育成を組織としてシステム構築することとした。具体的には精度管理基準、教育カリキュラム、eラーニング用コンテンツの作成、そして精度管理責任者育成研修会の開催を事業化する計画が進行中である。

日臨技企画 『学生フォーラム』

未来の臨床検査技師

◎吉澤 麗子¹⁾、関谷 元幹²⁾、小山 理恵³⁾、小澤 新⁴⁾、矢野 彩音⁵⁾、金田 航⁶⁾、馬場 照⁷⁾

日本海員掖済会 横浜掖済会病院¹⁾、神奈川県立循環器呼吸器病センター²⁾、社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市南部病院³⁾、医療法人財団報徳会 西湘病院⁴⁾、横浜栄共済病院⁵⁾、横浜市立市民病院⁶⁾、湯河原胃腸病院⁷⁾

我が国の高齢化は、医療の分野（臨床検査分野）においても例外ではなく、将来の人材確保は重要な課題である。しかし、2019年12月に中国で勃発した新型コロナウイルスの世界的パンデミックにより、その後3年間以上に渡り、学会や研修会など人が集まる様々なイベントの中止を余儀なくされた。

神奈川県臨床検査技師会（以下神臨技という）においても、コロナ禍以前に開催していた数々のイベント、特に新人（若手）技師を対象とした『新人歓迎BBQ』や『納涼会』などを開催することが出来ず、未だに復活していないのが現状である。そしてこの時期に新入職した技師は、他施設との交流や技師会の存在（実際にどのような活動をしているか）を知る機会が殆どなく、技師会離れが進んでいるように感じてしまう今日この頃である。

今回開催する『学生フォーラム』は、日本臨床検査技師会（以下日臨技という）の主催で、若手技師と学生が主導で活躍する場を設け、学会を通して技師会活動に参加し、将来リーダーとして活躍できる技師の発掘と育成を目指すことを目的としている。

そこで、今学会の開催地である神奈川県内の臨床検査技師養成学校4校から選抜された8名の学生達と、神臨技の若手技師として、我々企画委員とで一緒に企画・立案をする運びとなった。

7月に準備室を立ち上げ、今まさに内容を思案中であり、当日と一部異なる部分も生じると思うが、素晴らしい企画になることは確信している。

本年度の学生フォーラムのテーマは『未来の臨床検査技師』であり、以下の内容で実施したい。

① 『未来の臨床検査技師』

○年後の臨床検査技師を学生と若手技師のペアと一緒に想像し、発表する。5年後・10年後の近未来や、学生・若手技師が退職する40-50年後、100-200年後などを自由に考えたい。AI・ChatGPTなど、医療分野も新たな局面を迎える今だからこそその発想を楽しみたい。

② 学生主体のプログラムで、学生たちがまさに今、求めていることについての意見交換の場を提供する。

①・②共に多くの学生の参加を望んでおり、代

表者だけでなく会場に居る多くの方々と積極的な意見交換ができる様な時間にしたい。もちろん、若手だけでなく、今学会のテーマでもある『温故知新』の如く、幅広い年齢層の技師に意見を聞くことを望んでいる。

この度、このような企画を与えられ、若手技師の発掘と育成、そしてそのための学生教育（学生時代から技師会活動を知り、一緒に参加することで、就職した後もスムーズに技師会活動に参加できる）の一助となる機会を得たことは非常に嬉しく思う。

将来的に臨床検査技師の存続が危ぶまれる中、未来を担う若者の考えや感覚を取り入れ、パワーを生かすことこそが、臨床検査技師の未来と心得る。

神奈川県臨床検査技師会 企画委員会

吉澤 麗子

横浜掖済会病院（045-261-8191 内線214）